耕平さんかわら版

発行編集部
大塚耕平事務所
☎052-757-1955
kouhei@oh-kouhei.org

皆さん、こんにちは。お彼岸の季節です。暑さ寒さも彼岸まで。朝晩は冷え込む日もあります。くれぐれもご自愛ください。

お彼岸は、日本独特の行事として平安時代に始まりました。初めてお彼岸が行われたのは八〇六年。非業（ひごう）の最期をとげた早良（さわら）親王を悼み、崇道天皇の名をおくって鎮魂した行事が始まりとのことです。

先月お伝えしたとおり、日本で最初に行われた盂蘭盆会は六〇七年。仏教を日本に浸透させようとしていた聖徳太子の時代。お彼岸の始まりはそれから約二百年後です。

同じ頃、唐に渡った最澄と空海。最澄が八〇五年に帰国、空海は奇しくもお彼岸が始まった八〇六年に帰国しました。

中国（宋）僧が一二六九年（鎌倉時代）に来日した時の記録の中に「日本には春と秋に彼岸という行事がある」と記しています。鎌倉時代には武士の間でお彼岸の風習が定着し、江戸時代には庶民にも広まったようです。

お彼岸の日の出は真東、日没は真西。夕刻、日没方向を望むと極楽浄土を体感できると伝えられています。

「彼岸」はサンスクリット語（梵語）の「波羅密多（はらみった）」の意訳。「向こう岸に渡る」という意味。欲（虚飾）と煩悩に満ちた「此岸（しがん）」を離れ、寂静（じゃくじょう）の世界である「彼岸」に渡って、心を鎮めるという願いが込められています。

昼夜当分のこの日は、苦楽に偏らない「中道」を意味し、前後三日ずつで菩薩の修行を表す「六波羅蜜」の「六」を表現。したがって、お彼岸のことは「お中日（ちゅうにち）」とも言います。

昭和二十三年に定められた「祝日法」では、春分の日を「自然をたたえ、生物をいつくしむ日」、秋分の日を「祖先をうやまい、亡くなった人をしのぶ日」とされています。

人間は欲を満たすために自然や生物を犠牲にしています。祖先なくして今の人間はありません。お彼岸は、自然や生物に感謝し、祖先に思いをはせ、人間社会のあり様を省みる日と言ってよいでしょう。

※

高野山バスツアー

かわら版愛読者の皆様からのご要望にお応えして、今秋「**高野山バスツアー**」を行います。宿坊に泊まって奥の院を参拝。
定員**40**名様。お早目にお申込みください。

記

平成 25 年 10 月 26 日（土）-27 日（日）
一泊二日〈覚王山 / 名古屋駅発着予定〉
費用 24,000 円　/　定員 40 名様
1 日目：8 時頃名古屋発～ 15 時頃高野山着
宿坊「熊谷寺」泊
2 日目：奥の院～橿原神宮～ 19:30 頃名古屋着

大塚耕平事務所 TEL.052-757-1955 担当：浅井